

平成30年度 学校評価実施報告書

学校番号 059 学校名 千葉県立柏中央高等学校 課程名 全日制

| 領域 | 自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析) | 改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向) |
|----------|--|--|
| 学校経営 | <p>①ホームページは学校・学年行事や部活動の紹介について1ヶ月に平均12回のペース(昨年10回)で更新した。学校メールも、生徒向けに配信を開始し、保護者向けにも配付物等の案内についても配信した。そのため、生徒の保護者に配布物を渡している割合(76%)は昨年より改善した。しかし、職員は学校からの情報を保護者に伝えている(82%)と思っても、保護者は「学校は情報を伝える努力をしている」が72%と、昨年より下がった。PTA総会や学年PTA等を活用し、進路等の情報を提供したが、PTA行事に参加する保護者の割合(46%)が低く十分に伝わっていない。</p> <p>②チェックリストを用いて校内の施設・設備の安全点検を毎月実施し安全に配慮したが、施設の老朽化が進みトイレの汚れ等の苦情がある。</p> | <p>①保護者が、学校のホームページよく見ていると回答したのが34%、学校の様子を積極的に子供と話している割合が68%と、情報が必ずしも伝わっているわけではないことが課題である。そのため、引き続き学校の情報を直接伝える、PTA総会や学年PTA等を活用し、進路等の情報を提供を行うと同時に、クラス・学年通信やHP等に掲載した情報を学校メールを有効に活用して発信し、学校の取組や生徒の様子を多く伝える。緊急時の対応については、メール配信と合わせて、原則を徹底し、生徒の情報活用能力を高める指導を行う。</p> <p>②チェックリストを用い校内の施設・設備の安全点検を継続して毎月行うとともに、「事故防止や安全面を意識した生活を送っている(93%)生徒」を、あらゆる教育活動を通して更に意識を高め100%を目指す。</p> |
| 学習指導 | <p>①今年度は「主体的に学ぶ生徒の育成及び指導の充実」を図るため、授業の「めあて」の明確化を柱とした授業改善を掲げ、授業評価、研究授業のビデオ撮影、日々の授業観察等を行ったところ、「力のつく授業を行っているか」との評価項目で職員は90%近く、生徒は78%、保護者は71%と肯定的な評価が、昨年より上がった。</p> <p>②授業評価で生徒の授業に集中して取り組んでいるが86%と高くなったが、家庭学習について十分に取り組んでいるが、66%と低く、家庭学習に主体的に取り組ませることが課題である。</p> | <p>①授業改善のために、職員相互の授業観察・研究や職員研修を実施し、授業アンケートなど客観的な評価に基づいた授業改善を継続することで、生徒の「主体的な学び」を引き出し「力のつく授業」80%以上を目指す。</p> <p>②大学入試制度の改善を意識した「学力向上委員会」の取組が生徒・保護者に充分理解されていないため、学校の取組を、生徒保護者が理解し、納得したうえで主体的に学力向上や進路対策に取り組めるよう、情報提供と組織的な取組を図る。</p> |
| 生徒指導 | <p>①基本的な生活習慣については、日々の登校指導や整容指導、集会での自己管理能力を高める指導により、生徒の「ルール・マナーを守る意識、整容に心がける姿勢、遅刻しない心がけ」に関する項目で93%以上と高い。</p> <p>②生徒との面談、生徒のアンケート、SCを交えたケース会議を実施した結果、「生徒一人一人をよく理解するよう努めているか」の評価項目で、生徒の80%以上が肯定的な評価をしているが、生徒アンケートや保健室の利用生徒から「対人関係で悩みを抱える生徒」が増えており、十分に「生徒が相談しやすい環境が整っている(67%)」とは言えない状況がある。</p> <p>③いじめアンケートや日頃の生徒相談等により、いじめの早期発見・早期対応を組織的にやっている。</p> | <p>①「思いやり登校」やスマートフォンの使用規定などが守れない生徒が増えている。生徒の基本的な生活習慣の定着のため、引き続き登校指導・整容指導を行うとともに、スマートフォンの校内ルール等に関してその必要性を生徒主体に考えさせ、職員の共通理解のもと、より徹底した指導を行う。</p> <p>②生徒個々の理解を深めるため、クラス担任が生徒面談する時間の確保や職員間の情報交換ができるように放課後の利用の方法(放課後の会議は減らす等)を引き続き検討する。</p> <p>③引き続き、いじめは許さないとの共通認識のもと、アンケートや聞き取りによりいじめの早期発見に努めるとともに、日常的に担任、学年、関係職員間で情報の共有化を図り、SCにも協力してもらい職員研修等を充実させ、生徒相談に係る職員の意識を更に高める。</p> |
| キャリア教育 | <p>①進路指導の行事等をとおして、勤労観・職業観の育成を図ったところ、生徒の「将来の仕事や人生について、真剣に考えている」が、84%であった。</p> <p>②夏季休業中等を活用した1・2年生対象に地域の保育所・小学校・中学校、老人ホーム等のインターンシップに延べ人数62名、看護実習に15名の生徒が参加した。教職を目指す生徒向けに大学での体験学習に26名が参加するなど積極的に参加した。</p> | <p>①進路だよりの充実及び、生徒への配付と合わせてメール等で保護者に配付したことを伝え、家庭で保護者と生徒が進路等について話し合うきっかけを提供していく。</p> <p>②インターンシップについては、参加者の希望に対応できる運営を引き続き工夫していく。</p> <p>③各学年別の保護者向け進路ガイダンスを引き続き実施し、各学年保護者の参加者が増加するよう、メール等を有効に活用する。</p> |
| 特色ある教育活動 | <p>①有志を中心に地域のボランティア活動(高校生ボランティア体験講座3名、柏市夏休みボランティア35名など)に積極的に参加した。「大堀川のクリーン作戦」には、年3回約50名の生徒・職員が参加した。</p> <p>②運動系部活動の朝清掃や文化系部活動の積極的な地域行事やボランティア、防犯等の社会貢献活動によって、地域に貢献した。</p> | <p>①地域の社会福祉協議会との連携を一層密にし、福祉・防災教育の推進を図る。</p> <p>②吹奏楽部の演奏、ダンス部のダンス披露、美術工芸部、書道部、写真部の作品展示や放送部の司会進行などを通じて、地域行事の活性化にも貢献する。</p> |

| | |
|----------------------------|--|
| 学校評価の公表について (手段・時期・内容等) | <ul style="list-style-type: none"> ・3月初旬、ホームページで公開する。 ・3月下旬、学校だよりにより印刷し配付する。 |
|----------------------------|--|

| 領域 | 学校関係者評価の結果 | 学校評価のまとめ (課題と次年度に向けた改善方策) |
|--------------------------------------|---|---|
| 学 校 経 営 | <p>①学校からの広報活動について、ホームページを保護者があまり見ていない。関心のない人もいますが、トップページを頻繁に更新したり、写真を使う、学校メールを併用したりするなどの工夫が必要だ。また、生徒を介した連絡も直接保護者にメール等で呼びかけるような工夫が必要だ。</p> <p>②校内美化について評価が低いので、環境改善に取り組む必要がある。特に、トイレ等の老朽化について継続して改善を検討して欲しい。生徒が自ら積極的に校内美化に取り組む姿勢を引き出す工夫をして欲しい。</p> | <p>①学校の取組を伝えるため、ホームページのトップ画面を中心に頻繁な更新をし、学校メール(マメール)の併用を推進する。特に学力向上や進路、部活動などについて分掌・学年の情報更新が行われるよう、情報ネットワーク委員会等を活用する。昨年から導入した生徒への学校メールの配信もさらに活用を工夫する。</p> <p>②主体的に生徒が清掃活動等に取り組むよう、委員会、生徒会活動の活用を進める。計画的な予算の施行により施設の改善を進めるとともに不要物の廃棄や施設の修繕、校内美化に取り組む。</p> |
| 学 習 指 導 | <p>①職員の授業改善・学習指導の意識は近年上がっており90%近くであるが、生徒・保護者の学習指導に関する評価は生徒78%保護者71%と、昨年よりは上がっているが、今後も継続して改善に努める必要がある。</p> <p>②学校は、学力向上に向け主幹教諭を中心に組織的に取り組み、教員一人一人の授業力向上を行うなど、先を見据えた取り組みがなされているが、生徒保護者にあまり理解されていない。アクティブラーニングの成果は実力テストでないとなかなか判断できない面もあるが、継続して努力して欲しい。</p> | <p>①授業アンケートの有効活用、職員相互の授業観察ができるよう、公開授業週間の内容や方法について検討する。また、職員一人一人が、生徒の実態を理解した授業展開や生徒の主体的な学習の機会を多く取り入れた授業の進め方や課題の出し方等について考えるため職員研修を充実させる。</p> <p>②学力向上の取組について、その意義・目的を生徒・保護者に伝える工夫をし、授業、補習、進路指導、面談などを通じ、生徒の意欲を喚起し、学校全体で生徒の主体的な学習活動を推進し、家庭学習の充実に取り組む。</p> |
| 生 徒 指 導 | <p>①学校評価の基本的な生活習慣の項目は生徒・保護者90%前後と高く、家庭での協力も含め、ルールやマナーを守る指導に学校全体で取り組んでいることが伺える。また、スマホや携帯電話の使用ルールについて、その意義を生徒に理解させる必要がある。</p> <p>②生徒による生徒理解への評価が80%を超え、上がった一方で、心の問題を抱える生徒が増えており、生徒保護者からの要求等も多くなっている。家庭との連絡を密にアンケートや面談などにより生徒のきめ細かな把握は続けて欲しい。ストレスや困難に負けない心の育成も行って欲しい。</p> <p>③いじめ防止等に向け、細かな配慮を行っている。</p> | <p>①生徒自らがルールやマナーを守る意義を考える機会として、生徒会、委員会の主体的な取組を推進する。生徒・保護者に対するSNS等の利用に関する指導・周知を行い、家庭との共通認識のもと生徒の情報モラルに関する危機管理能力を高めるため、講演会などを計画し推進する。</p> <p>②被害調査の確実な実施、面談や各種アンケートを通じて学校全体で生徒の実態把握に努める。また、教育相談委員会・SCを中心とした個々の生徒への対応や職員の支援が必要な生徒への対応力、教育相談力を高めるため、委員会の活動充実とSCの研修への活用、職員の外部研修への参加を進める。</p> <p>③SNS等によるいじめ防止に特に力を入れる。</p> |
| キ ャ リ ア 教 育 | <p>①勤労観・職業観を育む取組は充実させて欲しい。進路指導やキャリア教育の取組に対する評価が上がらないのは、伝え方の工夫も必要。インターンシップやボランティアの充実をさらに進めて欲しい。</p> <p>②進路ガイダンスや保護者向け進路説明会に対し保護者の関心が高まっていないので、広報や企画を工夫して欲しい。</p> | <p>①インターンシップの内容の充実を図り、生徒のボランティアや体験活動への参加を促し、生徒に多様な体験の機会を与えると同時に、e-ポートフォリオ活用の意義を理解させる工夫をする。</p> <p>②学年・進路指導部・生徒指導部が連携し、進路説明会等の内容を充実させ、ホームページ、学校メールを活用して、学校の取組状況の保護者への周知に努める。全ての保護者向け進路説明会についても引き続き企画し実施する。</p> |
| 特 色 あ る 教 育 活 動 | <p>①今年度地域との連携は更に進み、地域行事への参加など感謝している。今後も地域との連携関係が続くことを望む。学校評議会への移行もにらんで、地域ができる協力を考えたい。</p> | <p>①今後も地域での体験活動の場の拡大に努める。インターンシップ、ボランティア活動、人権教育の取組にも活用する。また、「高田・松ヶ崎地域ふるさと協議会」を通じた地域連携を一層充実させる。</p> |